

# 2016年度 SciREXセンター インターンの声

2017年4月

政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策研究センター

(SciREXセンター)



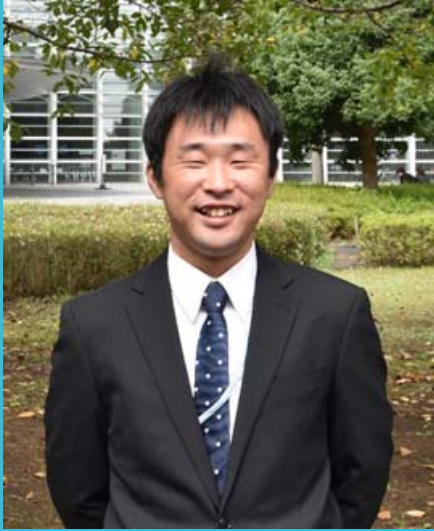
大庭あかりさん  
(東京大学公共政策大学院)

担当プロジェクト：  
政策形成のフレーミング、ステークホルダー分析、プロセスの構築を通じた政策形成プロセスの改善手法の開発

私は主に研究会の運営補助業務と議事録作成を行ったほか、科学技術政策の形成過程に市民が参画する意義について自分自身でも研究を進めました。

研究会では実際に文部科学省・研究者・産業界・シンクタンクなど多様な立場から科学技術に関与している方々の議論を間近で聞く貴重な機会を頂き、複眼的な視点から政策の現場を体感・理解することができました。

インターンシップを通して、大学院での専攻である公共政策への理解が深まっただけに留まらず、こうしたテーマについて考えを深めることは文系学生である自分にとっても大きな意義があることだったと感じています。また個人的な研究についても発表し、先生から直接フィードバックを頂くことができました。



## 新堂翔大さん

(大阪大学大学院国際公共政策研究科)

担当プロジェクト：  
イノベーションシステムを推進する公的研究機関の制度的研究

私はこのインターンで、大学のマネジメントの改善に資する「マネジメントスコアボード」作成に向けての日米大学の戦略計画・中期計画のテキスト分析、霞ヶ関で行われた会議の傍聴、国立大学の理事・副学長クラスを集めてGRIPSで行われた「大学トップマネジメント研修」の運営補助の3つの業務を行いました。

これら3つの経験を通して、研究手法、ロジのノウハウなど多くのことを学びましたが、特に「政策形成の実態」に触れる事ができたという点は、関西で学ぶ私にとってこのインターンに来たからこそその貴重な経験となりました。(実際に政策形成の最前線で行われている議論では、本や論文で政策上の課題としてあげられている点を非常に詳細に深掘りしていくため、なぜそれが問題になっているのか、解決策を考えるにあたってどのようなことを考慮しなければいけないのか、といったことを深く理解することができました。)

これらの経験は今後の自分の研究にはもちろん、キャリアを考えるにあたって也非常に有意義なものになると思います。(関東圏の学生はもちろんのこと、それ以外の地域の学生にもこのインターンを強くおすすめしたいです)。



## 鈴木慶彦さん

(東京大学大学院新領域  
創成科学研究科)

担当プロジェクト：  
経済社会的効果測定指  
標の開発

特許データを他の情報と結び付けるための処理などを行いました。他のインターン生を中心に、予想よりも理系の方が多かったのが印象的でした。

私のインターンの目的は、科学技術政策の分野で行われていることや、どのような人がいるのかを知ることでしたが、月1回程度の頻度で開かれているセミナーでも専門家の話をうかがうことができ、とても有益でした。ただ、政策のための科学というテーマでイノベーションに主眼が置かれているように感じたので、科学、特に基礎科学のための政策という観点をもう少し強めても良いのではないかと感じました。





中島沙由香さん  
(東京工業大学大学院)

担当プロジェクト：  
政策のモニタリング  
と改善のための指標  
開発

私はSciREXセンターで約1年半インターンシップをさせていただきました。主にノーベル賞に関する研究や科学技術と社会に関する指標作りのプロジェクトに関わらせていただきました。

ノーベル賞受賞者の方へのインタビューや文部科学省の方との会議、科学技術白書作成のお手伝いなど、他の場所では経験できないことをたくさん経験させていただきました。このインターンで様々な活動をさせていただいたり、センター内外の方々とお話しさせていただいたりしたことで、様々な角度から科学技術の在り方を検討することができ、改めて科学技術に対する社会的な視点の重要性を認識しました。

このインターンシップでは非常に意義のある経験ができます。理系文系問わず、ぜひ応募してみてください。



松岡広さん  
(東京大学公共政策大学院)

担当プロジェクト：  
政策形成のフレーミング、  
ステークホルダー分析、  
プロセスの構築を通じた  
政策形成プロセスの改善  
手法の開発

SciREXセンターのインターンでは森田朗先生、森川想先生のご指導の下、政策形成プロセスの改善手法の開発を目的に、行政庁の審議会等における議事録の計量テキスト分析に取り組みました。

気づきは大きく2点、(1) 本分析を展開していく上では、ソフトウェア分析にかけやすい形への議事録の定型化（いわゆる「オープンデータ」化の推進）が必要であること、(2) 一方で本分析の有効性には限界があること（参加者間の意見の協調・対立関係を抽出するのは難しい、そもそも議事に「本音」が出ているとは限らない、など）、でした。

科学技術の社会課題への適用においては、何が必要でどれだけ有効かを見極め交通整理していくことが肝要であり、それがいわゆる「文系」の役割なのかと3か月間のインターンを通じて感じました。



## 宮城あずささん

(慶應義塾大学総合政策学部)

担当プロジェクト：

- ①イノベーションシステムを推進する公的研究機関の制度的課題の特定と改善プロジェクト
- ②政策のモニタリングと改善のための指標開発

私は、SciREXセンターにて約半年間、「イノベーションシステムを推進する公的研究機関の制度的課題の特定と改善プロジェクト」と「公共的関与に関する活動についての国際比較調査プロジェクト（MORE-PE）」の二つのプロジェクトに関わらせて頂きました。

どちらのプロジェクトでも、調査に必要な基本的なデータの構築や整備に携わらせて頂きました。我が国の政策に定量的なエビデンスをもとにした提言ができるよう、様々なデータ収集や分析、各国の調査を間近で観察することができた経験は、私にとって非常に重要なものとなりました。

アカデミアで研究されてきた知見を、政策の場へ届ける事が重要と理解しつつも、それを実際に行う事の難しさをも学ぶことができたインターンでした。



## 山村亮さん

(大阪大学大学院理学研究科物理学専攻)

担当プロジェクト：  
政策のモニタリング  
と改善のための指標  
開発

私は約2週間「政策のモニタリングと改善のための指標開発」のプロジェクトに携わらせて頂きました。主に行った業務はインターン中に開催されるワークショップの資料作成と参加後のまとめ資料の作成でした。

また、インターンに参加する際の私のテーマでもあった「基礎物理と社会の関係性」についてのポスター作成も行いました。

インターンを通して感じたのは、私のような、実際に研究の現場にいる科学者たちとの交流を持つことが、今後の科学技術政策の鍵になるのではないかという事です。様々な立場の人の“本音”を聞くことができ、自分の今後の立場や役割を考える良いきっかけになりました。とても充実した2週間でした。